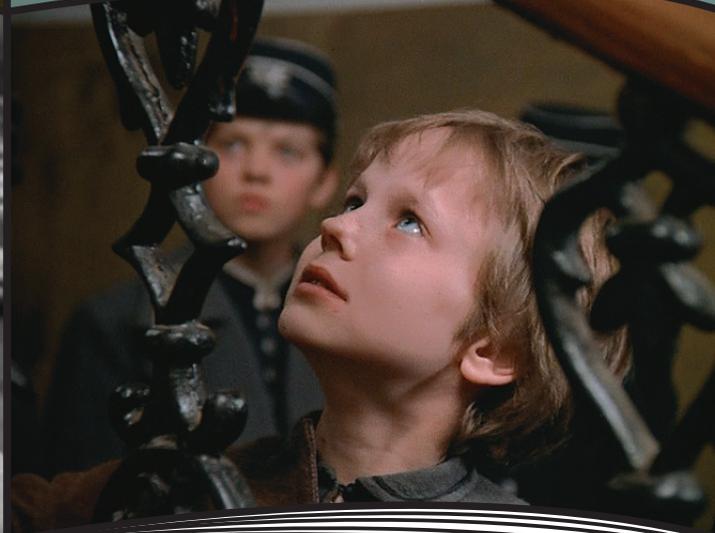




文京区区制60周年記念事業

ロシア文学と映画

ロシア文化フェスティバル
Фестиваль российской культуры в Японии 2007
2007 IN JAPAN



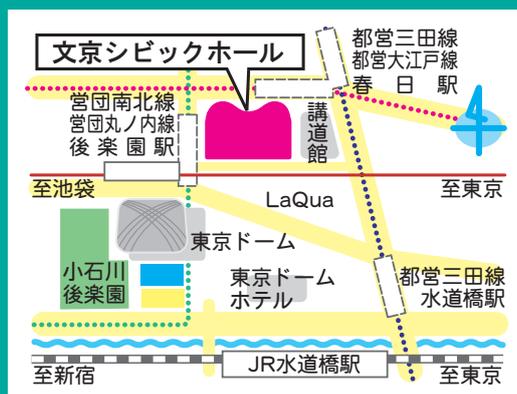
日時 2007年7月24日(火) 13:30開会

会場 文京シビックホール 小ホール

第1部 (13:30 ~ 17:00) 上映&トーク
映画『少年たち』『カラマゾフの兄弟』より
トーク 亀山郁夫氏 (東京外国語大学教授)
沼野充義氏 (東京大学大学院教授)

第2部 (17:30 ~ 21:00) 上映
映画『私は20歳』

入場無料 ※入場券が必要です。詳しくはチラシの裏をご覧ください



◎主催◎ロシア・ソビエト映画祭実行委員会 ◎共催◎文京区 (助)文京アカデミー
◎協力◎国際シネマ・ライブラリー 東京国立近代美術館フィルムセンター 日本ユーラシア協会

ロシア文学と映画



日本にさまざまな影響を及ぼしてきたロシア文学
その力は決して過去のものではありません
今もお刺激に満ちあふれています
映画とトークを通じて
このロシア文学の力にふれてみませんか

第1部 上映&トーク (午後 1:30 ~ 5:00)

上映 『少年たち 『カラマーゾフの兄弟』より』

Мальчики / 1990年ロシア作品/カラー/86分
レニータ・グリゴリエワ+ユーリー・グリゴリエフ監督

文豪ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』の中から、神学生となった末っ子アリョーシャのエピソードを映画化。いじめられっ子イリュエーシャをめぐるアリョーシャと子供たちの交流を描く。現存する文豪の曾孫ドミトリー・ドストエフスキーが顧問として全面的に協力、さらにドミトリーの息子アリョーシャが主要人物の一人クラソートキン(写真)を演じている。



ドストエフスキーとは—19世紀後半に活躍した小説家。60年の生涯(1821~1881)の間に、『罪と罰』『白痴』『悪霊』『地下室の手記』など数多くの作品を残し、いずれも現代に通じる問題が取り上げられている。その影響は全世界に及び、近現代の日本文学に及ぼした影響も計り知れない。

『カラマーゾフの兄弟』とは—ドストエフスキー最後の長編小説。ドミトリー、イワン、アリョーシャの三兄弟と父フョードル、そしてカラマーゾフ家をめぐる人びとの織りなす人間ドラマである。家父長フョードルの殺人事件をめぐる推理と裁判、親子・兄弟・男女間の愛憎劇など娯楽小説の要素を盛り込みながら、性格や世界観がまったく違う三兄弟の姿は、現代の矛盾に満ちたロシア人にも通ずるものがあり、興味は尽きない。

トーク (午後 3:20 開始)

日本を代表するロシア文学者のお二人に、ロシア文学の面白さ、文学と映画とのかかわりなどをお話いただきます。

亀山郁夫氏

1949年生まれ。東京外国語大学教授。専門はロシア文学。スターリン時代のロシアにおける文化全般をめぐる批評を展開するとともに、最近ではドストエフスキー文学の新たな読解に挑戦している。著書に『磔のロシア』(岩波書店)、『熱狂とユーフォリア』(平凡社)、『ドストエフスキー父殺しの文学』(日本放送出版協会)、『『悪霊』神になりたかった男』(みすず書房)ほか多数。光文社古典新訳文庫より『カラマーゾフの兄弟』の新訳も刊行中(現在3巻まで)。

沼野充義氏

1954年生まれ。東京大学大学院教授(現代文芸論専修)。専門は越境文学論、ロシア東欧文学、文芸批評。ロシアやポーランドの文学から、さらに欧米や日本も視野に入れながら、現代文学への越境的なアプローチを探っている。著書に『徹夜の塊』三部作『亡命文学論』(作品社、サントリー学芸賞)、『ユートピア文学論』(作品社)、『世界文学論』(近刊)のほか『W文学の世紀へ』(五柳書院)など多数。

第2部 上映 (午後 5:30 ~ 9:00)

上映 『私は20歳』 Застава Ильича/Мне двадцать лет

1962年ロシア作品/白黒/198分/マルレン・フツィエフ監督

「雪どけ」と呼ばれた自由な時代に、悩みを抱え、親たちと衝突しながらも人生を歩んでゆく若者たちの姿を描く。最大の見どころは、詩人たちの朗読会。日本とは異なる朗読のスタイルと、それに若者たちが熱狂する姿は、「ロシアにおける文学のあり方」を考えさせられる。この作品は、「同時代の生活の百科事典」を目指して作られ、エフトゥシェンコやオクジャワ、アフマドゥーリナら、同時代をリードする文化人たちの姿を記録する貴重な映像となっており、1960年代初頭の「雪どけ」と呼ばれた時代の自由な躍動感にあふれる空気が画面から伝わってくる。

※上映作品は2作品とも東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品です

入場券のお申し込み方法

*往復はがきに、「ロシア文学と映画」・住所・氏名(ふりがな)・電話番号と、返信用にもあて先を明記し下記へ。

応募締切：7月10日(火) 応募多数の場合は抽選

アカデミー文京 国際交流推進係

〒112-0003 文京区春日1-16-21

文京シビックセンター B1F

☎(03)5803-1310 FAX(03)5803-1341

ロシア・ソビエト映画祭実行委員会

〒156-0052 東京都世田谷区経堂1-11-2

日本ユーラシア協会内

☎(03)3429-8231 FAX(03)3429-8233

※当日券は、場内に余裕がある場合に発行します。